

## 1. 調査研究の概要

### 1. 1 調査研究の目的

2006年6月のISO/TC184/SC2パリ会議において、産業用ロボット以外のいわゆる「サービスロボット等」の国際標準化を開始することが決議され、用語に関する国際規格作成作業（ISO/TC184/SC2/WG1）及び安全性に関する国際規格作成作業（ISO/TC184/SC2/WG7）が開始された。それらの国際規格作成作業に対応するため、当該分野ロボットに関する国際標準案について検討を行うと共に日本提案を作成し、それらを速やかに提案する。

### 1. 2 調査研究の体制

本調査研究の体制は次のとおりである。

サービスロボット用語等標準化調査専門委員会 (委員長：増田良介 東海大学情報理工学部教授)
用語検討ワーキンググループ (主査：増田良介 東海大学情報理工学部教授)
安全性検討ワーキンググループ (主査：山田陽滋 名古屋大学大学院工学研究科機械理工学専攻教授)

### 1. 3 調査研究の概要

わが国は、サービスロボットの開発については国際的にトップレベルの技術力を有しており、家庭、福祉、警備等の生活支援分野において、人間と協調・共存環境で使用されるサービスロボットの研究開発及び実用化が急速に進んできた。

これらサービスロボット分野に関する国際標準化活動において、わが国のサービスロボット産業の国際競争力強化の観点から、当該分野における国際標準化活動のイニシアティブを取り、国際提案を積極的に行っていくために、以下の調査研究を実施した。

#### ①サービスロボットの用語の国際標準案の作成等

ISO/TC184/WG1で検討されているサービスロボットの用語の国際標準案については、平成20年度に修正された規格案の章立てに従って、700語ほど挙げられているサービスロボット用語の候補から、基本となる用語の絞り込みを進め、その定義についても提案を行い、WD作成を行うと共に、新規作業項目提案投票時に付す日本コメントの検討及び作成を行った。

#### ②サービスロボットの安全性の国際標準案の作成等

ISO/TC184/WG7で検討されているサービスロボットの安全性の国際標準案については、WDの内容が不十分であるため、詳細な検討を行い、日本提案を作成することで、より良いCD作成を実現した。また、CD投票の際に付す日本コメントの検討及び作成を行った。

③ISO 会議出席

6 月にベルリン、10 月に東京、2 月にオーランドでそれぞれ開催された ISO/TC184/SC2/WG1, WG7 等の国際会議に出席し、サービスロボットの用語及び安全性の国際標準案作成状況把握及び日本提案を行った。